

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に係る研修会（授業研究会）を実施しました。

新たな学校教育準備プログラム推進事業
通信 No.6

平成30年11月7日
教育指導課教育課程係

『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善』

仙台市立七北田小学校

〈研究主題〉学習活動や日常生活に生かす書写能力の育成

— 書写指導の工夫を通して —

10月31日(水)に、仙台市立七北田小学校（相澤 経利 校長先生）を会場として、授業研究会を行いました。

- 中学年部研究授業（4年2組）
教材名：部分の組み立て方（上下）「雲」
授業者：高橋 亨典 教諭
- 高学年部研究授業（5年3組）
教材名：部分の組み立て方1（による）「道」
授業者：菊地 一樹 教諭

どちらの学年も、「ためし書き」と「まとめ書き」を、書写指導における原理・原則に則って比較する時間を設定し、児童が主体的に取り組み、学んだことが明確になるような展開や、書いたものを隣同士で見合い、互いの課題に気づき、伝え合う活動を通して、学びの深まりを図る授業を展開していました。

子供たちは、授業の始めに書いた「ためし書き」の文字と、最後に書いた「まとめ書き」の文字を自

分自身で比較したり、友達に見てもらって拍手をもらったりすることを通し、一単位時間の中での成長を実感していたようでした。

各分科会では、校内研究の視点である『原理・原則を活用した書写指導』と『ユニバーサルデザインを取り入れた書写指導』に沿って、話し合いが行われました。「話し合いの質の向上のためには、体験がベースになる」「ペアで話すときのポイントが絞られていないと、深い学びにつながらない」「大切なポイントを視覚的に示すことは、書写の時間においても子供たちの理解を促すことに非常に有効である」など、活発に意見が出されました。



指導助言者の仙台市教育センター大沼みどり指導主事からは、子供たちの実態をしっかり捉え、指導過程の中での発問や構成の工夫が見られたこと、子供たちの声を十分拾い上げながら、ねらいに迫る授業が展開されていたこと、子供たちへの指示に細かな配慮がされており、ユニバーサルデザインを意識した授業展開を感じることができたことなどについて話がありました。また、『深い学び』については、「ためし書き」と「まとめ書き」を見比べる活動をした際、どこがどのように変わったのか、今日は何を学び、できるようになったことは何なのかということ、具体的に言葉で表現し合うことができると、より深い学びにつながる、更に相手の話を聞いて終わりにするのではなく、その話を受け、自分自身の中で振り返り、納得するための時間を持つことで、自分との対話が生まれ、学びの深まりにつながる等の助言があり、参加された先生方は、皆熱心に聞き入っていました。